

森山町小学校	重点課題推進校	教科一般（学習形態）
--------	---------	------------

1 研究の重点と具体的な取組

テーマ「かかわり合いを通して『豊かな学び』を」について、友達とかかわり合い、学び合う学習を通して、思考力・判断力・表現力、より良いものを求める態度や力を身につけることを目標として取り組んだ。

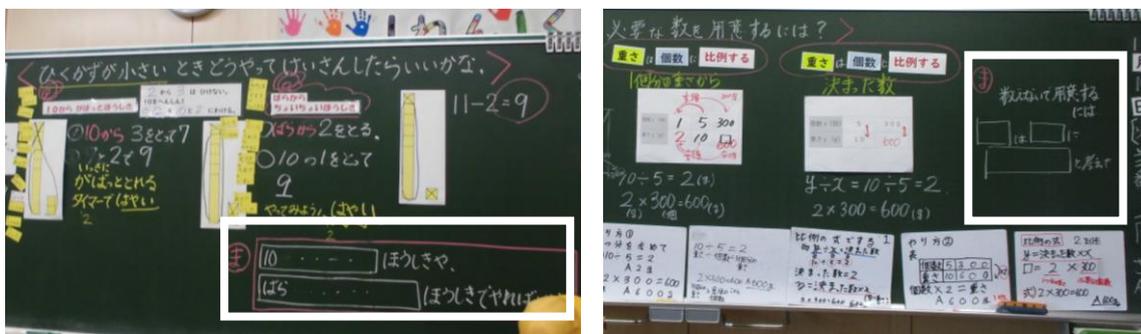
(1) 重点1 かかわり合いを通じた豊かな学びができる指導の工夫

- ・主体的に学び合い、学びを深めるために、目的を明確にしてからペア・グループ活動を始め、効果的なペア・グループ活動の場面の設定について検討した。
- ・全員が「わかる」「できる」ことや、考えを広げたり深めたりすることにつながるような「深めの発問」や「追課題」を吟味し、週案に明記した。
- ・「めざす児童の深まった姿」を具体的にイメージし、研究授業の事前研や事後研で、授業の児童の姿を通して「深めの発問」や「追課題」が効果的だったかを話し合った。

(2) 重点2 かかわり合いを通じた説明力をつける指導の工夫

説明力をつけるために、自分の言葉でまとめやふり返りが書けることをめざした。

- ・まとめを書く前に、学習のポイントや学びをペア・グループや全体で話し合い、確認し、自分の中で学びを再構築してからまとめを書かせた。
- ・課題に即して一番大事なことを入れてまとめが書けるように、キーワードを確認する、穴埋めにするなどの学年や学習内容に応じた手立てを工夫した。
- ・全員が「わかった」「できた」と実感できるよう、教師が適宜、まとめを評価し、よいまとめを紹介するなどして、クラス全体で共有した。
- ・児童の家庭学習として、自学にその日の学習の復習やふり返りに取り組ませた。



自分の言葉で「まとめ」を書くための手立ての例（左：1年 右：6年）

2 取組の検証

(1) 重点1 かかわり合いを通じた豊かな学びができる指導の工夫

以下のアンケートの調査結果から、教師が授業において「授業後半場面で目的を明確にしたペア・グループ学習を設定した」と、肯定的な評価をした教員の割合（項目①）が、後期は前期よりも19.6%上回った。また、児童の姿から、「児童がかかわり合いにより考えを広めたり深めたりしている」と、肯定的な評価をした教員の割合（項目②）も、後期は前期を21.1%上回った。また、児童アンケート「友達と話し合ったことで、自分の考えが広まったり深まったりしている」では、肯定的な評価をした児童の割合は、後期は前期を1.8%上回った。

「深めの発問」や「追課題」の吟味し週案に明記する取組では、100%の教員が、週案に「深めの発問」や「追課題」を明記することができた。

教員・児童アンケートにおける肯定的な評価の割合

	前期	後期
① 授業後半場面で目的を明確にしたペア・グループ学習を設定した（教師アンケート）	73.3%	92.9%
② 児童は、かかわり合いにより、考えを広めたり深めたりしている（教師アンケート）	78.9%	100%
③ 友達と話し合ったことで、自分の考えが広まったり深まったりしている（児童アンケート）	89.7%	91.5%

(2) 重点2 かかわり合いを通じた説明力をつける指導の工夫

教師アンケートの調査結果から、教師が授業において、「まとめを児童が自分の言葉で書けるように指導している」と、肯定的な評価をした教員の割合は、後期は前期の66.7%よりも33.3%上回り100%であった。また、児童アンケート「自分で考えて『まとめ』を書いている」では、前期後期共に約90%の児童が肯定的な評価であった。さらに、教師が適宜、児童のノートの「まとめ」の記載を評価した結果、「『深まり・まとめ』を示す記述があった」と回答した割合は、後期は100%であった。

3 成果と課題

<成果>

(1) 重点1 かかわり合いを通じた豊かな学びができる指導の工夫

- ・授業後半部分において目的を明確にしたペア・グループ活動を行ったことで、児童がかかわり合いによって、より考えを広めたり深めたりすることができた。
- ・積極的にかかわり合いの場を設定したことで、自然に学び合って学習する姿が見られるようになり、助け合って分かり合おうとする姿が随所に見られた。また、友達への気配りや気遣い、友達の良さに気づくことができる子が増えた。
- ・週案に「深めの発問」や「追課題」を書くことで、全員が「わかる」「できる」ことや、考えを広げたり深めたりすることをめざし、教材研究の一つとして「深めの発問」や「追課題」を考える意識が高まった。

(2) 重点2 かかわり合いを通じた説明力をつける指導の工夫

- ・「まとめ」を書く前に、学習のポイントや学びをペア・グループや全体で話し合い確認してからまとめを書かせたことで、児童は自分の中で学びを再構築することができ、自分の言葉でスムーズに「まとめ」を書ける児童が増えた。また、理解の深まりも評価することができた。
- ・キーワードの提示や穴埋めにする等の学年に応じた手立てを工夫したことで、課題に即して大事なことを入れたまとめが書ける児童が増えた。
- ・取組の方法を具体的に提案したことで、取組の共通理解・共通実践ができ、児童の「自分の言葉で『まとめ』を書く」ことに対する意識も高まった。

<課題>

- ・児童の実態に応じて「学びの豊かさ」について再検討し、児童がかかわり合って学び合うことを通して児童が自ら学びを切り拓いていけるような自立した学び、能動的な学びをめざして研究をしていく。
- ・児童一人一人の説明力の向上を図るために、「まとめ」を書く際に、学習の用語を正しく使ったり、文章の表現をよりよくしたりできるような取組を行い、確かな理解や深い学びにつなげていく。